令和２年１０月１７日　発行

中井だより

中井やまゆり園

呼称について

地域支援課　地域・発達障害支援班長　岡田　円

この４月より、地域・発達障害支援班に配属になった岡田と申します。中井やまゆり園の配属は、今回が初めてとなります。知的障害の施設は、新採で配属となった三浦しらとり園で 10 年間働いて以来、17 年ぶりとなります。

今から 25 年くらい前になりますが、とある県立の知的障害者施設の再整備をきっかけに作成され、利用者一人一人を 400 字程度で紹介している冊子があります。私が、その冊子を持っている理由については、ちょっと割愛させていただきますが、その中で「〇〇ちゃんこと、〇〇さんです。」や「〇〇さんです。愛称は〇〇ちゃんです。」で始まる紹介文がちらほらあり、今読んでみると気になったりします。当時は私もしらとり園で、年上の利用者であるにも関わらず「ちゃん、くん」で呼んでいた利用者は何人かいました。 呼称の問題は、私が働き始めて数年後には問題として挙げられ、厳しく「さん」に統一された記憶があり、当時の私は「ちゃん、くん」で呼んでいた利用者に親しみを込められなくなったと、少し不満に思ったことがあります。しかし、今では「さん」で呼ぶのは当然であり、やまゆり園では「ちゃん、くん」で呼ぶ職員はいないと思います。

そもそも、大人を「ちゃん、くん」で呼ぶのは親族か友人くらいで、職場でもほとんどなくなってきていると思います。利用者に親しみを込めて「ちゃん、くん」で呼んだとしても、そこには相手への敬意は少なく上下関係が伝わるため、利用者と職員との関係としては適切ではないと思います。呼び捨ては、親しみすらなくなり上下関係だけになりますので、論外でしょう。逆に、「さま」で呼びましょうとなった場合、相手に敬意を伝えることはできますが、親しみは薄れてしまうように思います。一時的な接客で名前を呼ぶ時は良いと思いますが、施設のように日常的にサービスを提供している場所では、敬意だけでなく親しみも伝わる「さん」がやはり良いかと思います。

私が、しらとり園で働き始めた時は、私自身先輩職員や同期から「ちゃん」づけで呼ばれることが多かったです。しかし、年を重ねるうちに「ちゃん」は減り、「さん」が多くなっていきます。しらとり園を出た以降は、「ちゃん」で呼ばれることはなくなりました。しかし、やまゆり園に異動となったとたん、その「ちゃん」で私を呼んでいる職員が二人くらいいたのです。絶滅したかに思われていた「ちゃん」が生き残っていたことは、時代に合わないゆゆしき事態だと思いましたが、いずれいなくなってしまう絶滅危惧種であると考えると、懐かしさとともに寂しくもあります。